「深谷市スタイル」について

現在、情報化、グローバル化といった大きな社会的変化が進む中、家庭・地域の生活力の多様化により、今まで以上に子どもたちに学習習慣、生活習慣、運動習慣などの習慣形成を育む必要があります。

また、各学校においては、通常の学級に特別な支援を必要とする子どもたちが年々増加しており、このような子どもたちには、学校生活における教室環境の整備と授業での学習規律の見直しが必要であり、学習効果を上げるためには、家庭での学習習慣の定着と学習環境の整備も必要となります。

そこで、教育研究所研究協力員の先生方、深谷市学力向上推進委員会の委員の先生方、小中学校の校長先生方にご協力いただき、「深谷市スタンダード」や「授業ベーシック」を支える基盤となるよう「深谷市スタイル」を作成しました。それぞれの小中学校における児童生徒の実態に合わせて、また、若手教員への支援も含め様々な場面で活用を図ってください。

内容項目

Ⅰ　［学校生活編］

1　場の構造化

2　刺激への配慮

3　生活の見通し

4　ルールの確立

Ⅱ　［学習指導編］

1　授業の見通し

2　板書の工夫

3　指示の出し方

Ⅲ　［家庭学習編］

1　家庭学習の定着

2　学習環境の整備

深谷市スタイルⅠ［学校生活編］

1　場の構造化

・構造化とは、「いつ」「どこで」「何を」「どのように」行動すればよいのかわかりやすくするために、目に見える形で提示することを言います。
・教室での構造化には、①見ただけでわかる明瞭な表示をする、②空間を目的別に仕切る、③合理的に物を配置するなどがあります。

◎ポイントと具体例

○見ただけでわかる明瞭な表示をしましょう。

・登校後の「提出物」と「活動」の表示をします。「何をどこへ」出すのか、「次の活動は何か・どこでやるのか」がわかるように表示します。
・道具箱の整理整頓、管理には、番号順の提出物や班ごとの道具箱を活用します。

○空間は目的別に仕切りましょう。

・特別教室などで、活動の種類別に場の設定をすると快適な学習空間ができ、学習効率を上げることができます。児童生徒の観察がしやすくなり、安全管理の面からも目が届きやすくなります。

例えば、のこぎり作業時、作業と工作のスペースを班ごとに前後で分けるレイアウトにします。

○合理的な場所や物の配置をしましょう。

・収納の仕方を写真で示すことによって、「どこに」「何が」しまってあるのか、どのように片付けるのか、一目でわかります。

深谷市スタイルⅠ［学校生活編］

2　刺激への配慮

ねらい

・児童生徒の注意をそらしたり、大切な情報をわかりにくくしたりする余分な刺激（情報）を取り除くことで学習に集中できます。

・配慮したい刺激として、①情報過多な視覚刺激　②混乱を招く聴覚刺激　③影響し合いがちな人的刺激などが挙げられます。

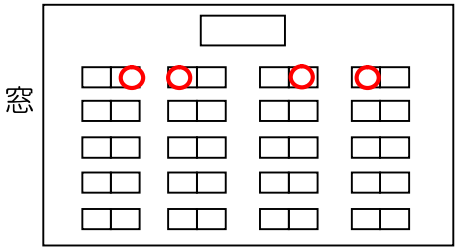
◎ポイントと具体例

○視覚による刺激の調整・軽減・配慮をしましょう。

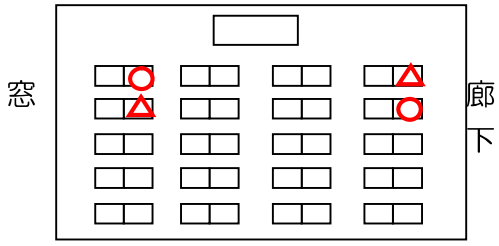
・黒板周りを簡素化し、棚に目隠しカーテンや目張りなどをします。前面をすっきりとさせ、余分な刺激を取り除きます。

○座席の工夫で、刺激の調整・軽減・配慮をしましょう。

《集中しやすい座席》

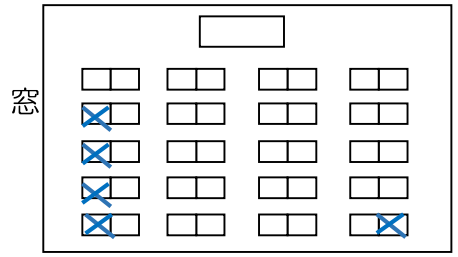


○印は、他の児童からの刺激を受けにくい席。また、教師からの個別のサポートを受けやすい席。

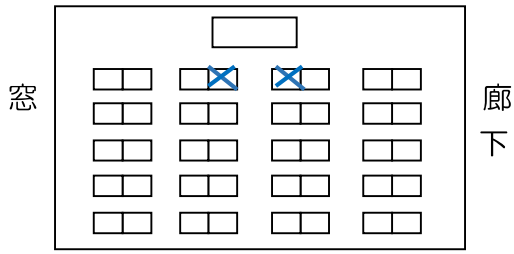


○印は、刺激が少なく、教師の指示を聞き逃しても、周囲の行動を見本にできる席。
△は片耳が聴こえない子も聴こえる方の耳が教室の内側になるような席

《集中しにくい座席》



窓際は校庭の様子や物音に、出入り口の近くは廊下の気配に注意がそれやすい席。



×印に多動傾向がある児童生徒がいる場合、それが他の児童の刺激となり教室が騒々しくなりやすい席。

深谷市スタイルⅠ［学校生活編］

3　生活の見通し

ねらい

・主体的に判断し、意欲をもって行動するためには、生活に見通しをもてることが重要です。
・「これから何をすればいいのか」「提出物や持ち物の忘れはないか」などの重要な事項を視覚的にわかりやすく示すことが大切です。

◎ポイントと具体例

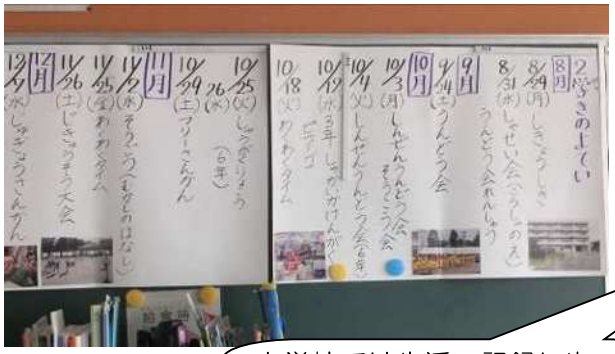
○１時間ごと・１日のスケジュールを示しましょう。

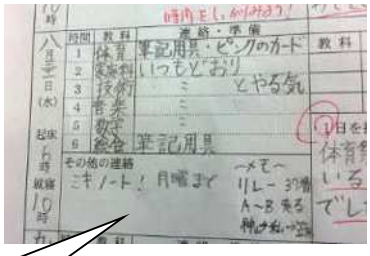
・落ち着いた生活を送るうえで、学校生活に見通しをもたせることが大切です。
・朝のうちに、１時間ごとの教科、授業を行う場所等を掲示しておくことで、１日の生活に見通しを持たせることができます。教師の指示の軽減や児童生徒の不安を減らすことができます。
・繰り返し使えるように、ボード、表示用のパーツ、パーツ用収納ケースなどを作成しておくと、急な変更でも対応しやすく、便利です。

○行事予定表やノートを活用しましょう。

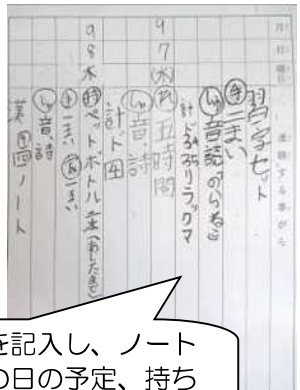
・運動会や宿泊行事などの学校行事に向けて、気持ちを高め、準備等の見通しをもたせるために カレンダーや行事予定表を活用します。
・メモ帳、手帳などを活用させることで、見通しをもたせ、忘れ物を防ぐことができます。メモ帳の使い方、記入の仕方等を指導して習慣化させることが大切です。

中学校では全員に週案を配布して、１週間ごとのスケジュールや取り組み方などを知らせ、見通しをもたせ取組を行っています。





中学校では生活の記録に次の日の予定や持ち物を記入し確認させます。



小学校では連絡帳を記入し、ノートを見直すことで次の日の予定、持ち物、宿題などの確認ができます。

深谷市スタイルⅠ［学校生活編］

4　ルールの確立

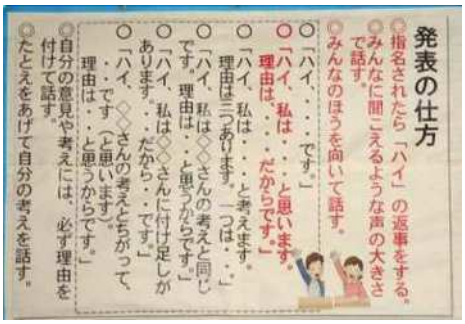
ねらい

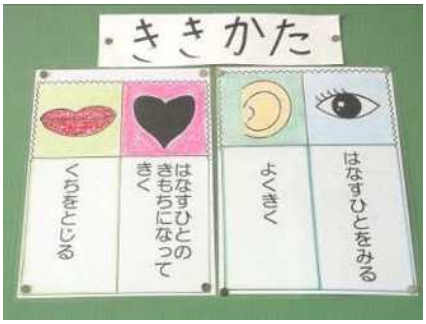
・ルールは、集団生活において適切な行動を示し、具体的にどのように動いたらよいのかを教えます。
・ルールや作業工程を事前にわかりやすく視覚的に示すことで、その場の状況判断が苦手な児童生徒でも安心して学習や生活に向かうことができます。

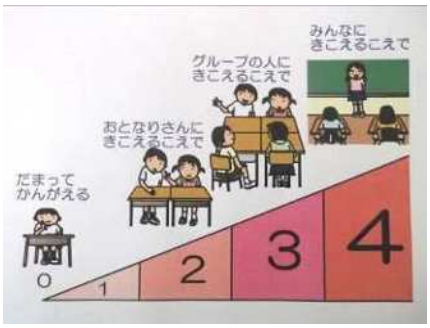
◎ポイントと具体例

○発表の仕方、話の聞き方の構えを作りましょう。

・授業の始まりと終わりをはっきりさせるために、姿勢を整えてあいさつをします。
・自分の意見や感想などの「発表の仕方」を共通の型として決めておきます。
・相手の「話を聞く」、正確に「聞き取る」ことは、単に受け身ではなく、進んで聞ける構えを習慣化させることが大切です。

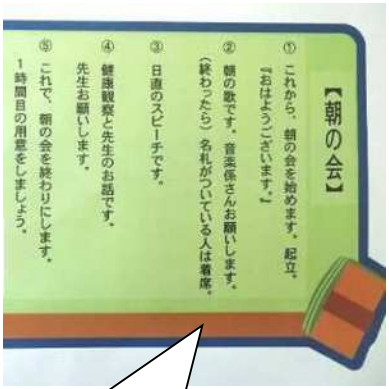






○手順・行程や内容を明確にしましょう。

・教室内の守るべきルールを覚えることが環境づくりの一歩です。簡潔な言葉や図式化をすることで、誰にも円滑で安心な活動が可能となります。
・朝、帰りの会の流れ、掃除の手順、日直の仕事、作業の順番などをわかりやすい図や写真、言葉で示します。



安心して朝、帰りの会の進行ができます。

1つ1つの手順が示されており、やるべき仕事が確認しやすい。

写真や図と言葉がタイアップしているとわかりやすい。

深谷市スタイルⅡ［学習指導編］

1　授業の見通し

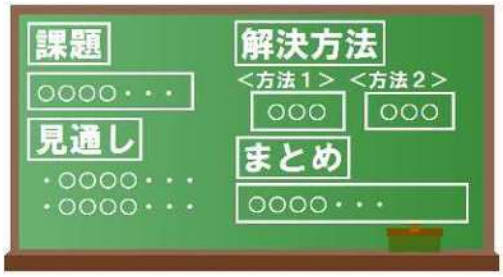
ねらい

・授業のめあて（目標・課題）や流れを明示することで、見通しをもって授業に臨むことができ、主体的な学びが期待できます。
・活動の始まりと終わりを明確に示し、いつまでに何をするのか、どこまでやれば終わり（区切り）なのかをはっきり示します。

◎ ポイントと具体例

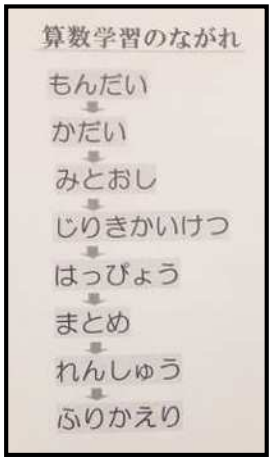
○授業のめあて（目標）や流れを黒板に掲示しましょう。

・「課題」「見通し」「まとめ」など、１時間の授業の流れがわかるように書く位置を工夫します。
・黒板の端や小黒板、ホワイトボードなどに授業の流れを掲示します。



○毎回、一定の流れで進む授業のスタイルにしましょう。

・教科の特性に応じて、授業のパターンを決めます。
・特に低学年では、集中できる時間に限度があることから、１０～１５分の活動を組み合わせて構成すると、じっと座っていることが苦手な児童も授業に参加しやすくなります。
・授業に小テストを入れるのも工夫の一つです。
・授業の振り返り場面では、学習した内容等について触れるようにしましょう。



○いつまでに何をするのかを示しましょう。

・「◇時◇分までに～しましょう」「◇時◇分になったら～しましょう」と指示を出します。
・視覚的にも分かりやすいように時計と指示内容が書かれたカードを提示します。残り時間が見えるタイマーやスクリーンにタイマーを表示するのも効果的です。

深谷市スタイルII［学習指導編］

2　板書の工夫

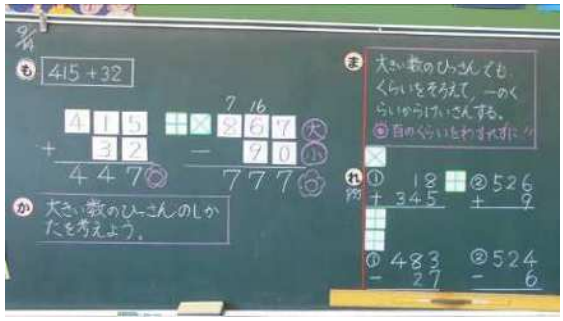
ねらい

・板書の目的は、視覚に訴え、思考を深めることにあります。
・そのままでは消えてしまう言葉のやりとりやポイントを板書に整理し、残すことで、思考の拠りどころとなります。
・話し言葉だけでなく視覚情報を適切に添えるための基本ツールが黒板です。

◎ ポイントと具体例

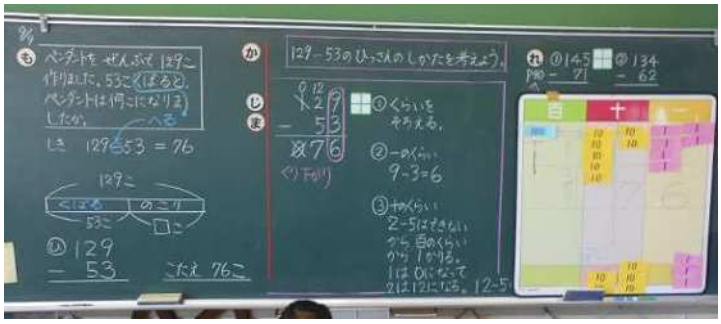
○板書は途中で消さずに残しましょう。

・１時間の学びの過程が分かる板書計画を立てます。
・めあて（目標）やポイント表示します。
・板書とノートを一致させます。
・授業の終わりに板書を使って、１時間の学習の振り返りを行います。



○小黒板（ホワイトボード）、プロジェクター等の ICT を活用しましょう。

・小黒板は、児童・生徒が考えたことを書いたり、教師が既習事項を提示したりして補助的に活用することができます。見るべき箇所が目立つため、要点を整理するのに有効に提示できます。
・プロジェクターや実物投影機などは、見るべきポイントがはっきりしているので、視力の弱い子にも注目しやすく効果的です。



○チョークの色分けを工夫しましょう。

・ポイントを分かりやすく強調したり、補助線を使用したりします。
・色の識別が難しい児童・生徒に対しては、基本、白や黄色を使用するとよいでしょう。

※ 授業が終わったら板書を映像として撮っておくと、書くことが苦手な子への配慮になります。また、自分の iPad で撮る許可を出すとよいでしょう。

深谷市スタイルⅡ［学習指導編］

3　指示の出し方

ねらい

・指示や伝達事項は聴覚的（言語）指示だけでなく視覚的（板書、絵、写真など）に掲示することで、児童生徒が対象に意識が向き、注意が喚起され、学習に集中することができます。
・対象に向けて視線を引きつけ、手を統制し、姿勢を正す「聞く構えづくり」が大切です。

◎ポイントと具体例

○教師が意識して場面を区切りましょう。

・教師の話を聞くとき（話を聞かせる時）
「聞く構えづくり」ができているか確認しましょう。
教師が話をする姿勢を伝えることで児童生徒も意識が集中できます。
・話を聞く場面とノートに書く場面の切り替えでは間をとるようにしましょう。動作や作業が遅れがちな児童生徒が次の行動に一緒にスタートでき授業参加しやすくなります。
・ノートに書いているときに、指示を出さないようにしましょう。
・重要な話は同じ立ち位置で話しましょう。ハンドサインを決めましょう。

○明確な指示を出しましょう。

・要点をおさえ、短い言葉で示します。
例：「３つ話します。１つめは～、２つめは～、３つめは～」
・「質問は最後に聞きます。」「黙って手を挙げます。」等予告やルールを伝えておきます。
・「１文１動詞」でメリハリのある指示を出します。例：「１０ページを開きます。」
・視覚的指示も使います。要点の板書、絵や図の活用、ICT などを活用し視覚的にわかりやすく残る物を掲示しましょう

登校後に取り組むことのポイント。

歌い方のポイント

テスト勉強のポイント

深谷市スタイルⅢ［家庭学習編］

1　家庭学習の定着

ねらい

・家庭学習が習慣化するまでサポートします。
・本人の学力や特性に合った学習の進め方を助言します。（確実にできるレベルや学習時間の設定から始めるようにします。）
・何をどのようにどのくらい勉強するかを考えることが大切です。

◎ポイントと具体例

○教科と時間を決めさせましょう。

・一人でできそうな教科、学習開始時間を本人に決めさせます。

	月	火	水	
5時	部活	部活	TV・ゲーム	
6時	ゲーム	ゲーム	夕食	
	夕食・入浴	夕食・入浴		
7時	TV	TV	塾	
8時	勉強	勉強		
9時	自由	自由	勉強	
10時	就寝	就寝		

国語･･･教科書を音読（20 分）
英語･･･単語を５つ覚える（20 分）
社会･･･重要語句をノートに写す（20 分）

○学習量と内容を決めさせましょう。

・部活動、夕食･入浴、塾、余暇等の時間も加味して家庭学習のスタート可能時刻を決めさせます。
・週の予定を表にし、教科の内容、所要時間を具体的に記載させます。
※子供の実態に応じた量の調整も保護者、本人と話し合って決めるとよいでしょう。

○時計を目の前に置いて始めさせましょう。

・時間を意識させ、時間を区切って集中力を持続させるようアドバイスします。
　例「◇時◇分までに～しよう」
　　「◇時◇分になったら～しよう」

○保護者の積極的な関与をすすめましょう。

・できていることへの称賛を保護者にお願いしましょう。
「毎日続けて偉いね」
・学習開始のきっかけになる声がけをお願いしましょう。
「あと５分で８時だね」
・学習時間を意識させる働きかけをお願いしましょう。
「３０分したら休憩しようね」

※習慣化してきたら、時間を延ばしたり、レベルを上げたりしていくようお願いしましょう。
※学校では、家庭学習につながる授業を進めましょう。

深谷市スタイルⅢ［家庭学習編］

2　学習環境の整備

ねらい

・ついゲームやインターネットを長時間してしまう傾向の子に対してどのようにしたら家庭学習に取り組めるのかを探ります。
・保護者と協力しながら、家庭での学習環境を整えます。

◎ポイントと具体例

○ゲームやインターネット、スマホ、携帯等の時間を決めましょう。

・安心ふっかネットを確認するようお願いしましょう。

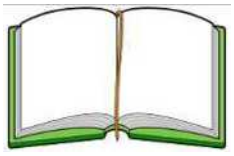
	月	火	水	
4時		サブロー		
5時	ジロー		ジロー	
6時	夕食・入浴			
7時	勉強			
8時	イチロー			

○家庭でのルールを決めてもらいましょう。

（例１）
・ゲームは決めた時間だけ
・夕食後は電源 OFF
・お兄ちゃんの試験期間中はみんなゲームをがまん

（例２）
・７時～８時は全員勉強
・勉強中の人がいるときは TV をつけないで静かにする

○ゲームやインターネット以外の過ごし方を家族で話し合ってもらいましょう。



読書

トランプ

※個人用 iPad の家庭での使い方のルールを学校の方針、約束として家庭へ伝えておきましょう。
※家庭で決められない場合は教師、保護者、本人と話し合うのも効果的でしょう。
※教師は、保護者とよく話し合いながら改善していきます。連絡帳や個人の生活記録等で励ますと良いでしょう。
※ゲームやインターネット漬けの生活が脳や体に与える影響等クラス全体に話していきましょう。

◎ 参考文献

○ 埼玉県立総合教育センター　http://www.center.spec.ed.jp/

〈学力向上 BOOKLET〉

・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくり１２のポイント

〈特別支援教育担当　資料〉

・小・中・高等学校及び特別支援学校におけるユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践に関する調査研究（H24 調査研究）

○ 深谷市教育委員会　http://www.education.fukaya.saitama.jp/

・深谷市立小中学校　家庭学習の手引き

○ 深谷市プリンシプル①②

○ 深谷小学校　Teachers’ Guide